

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

わたしたちは、生活の中で毎日たくさん情報を得ています。目や耳から入ってくるそれらの情報を、それぞれの特徴によって分類し、知識のタンスのなかに整理整頓しているというわけです。

分類するためには、比較・対照が有効な方法です。いくつかのものを比べ合わせることによって、似ている点（類似点）や違っている点（相違点）が明らかになるので、物事の特徴をとらえやすくなります。

次の文章は、「ひとつ穴のムジナ」と呼ばれたタヌキとアナグマを比較・対照したものです。

動物のなかには他人の造った巣穴に間借りしてすみ込む者もいる。タヌキがそうである。家主はアナグマだ。われわれと違い、権利金も家賃もいらぬ。

タヌキはイヌ科に属していて、オオカミやキツネの仲間だが、（中略）タヌキの家主であるアナグマは、イヌ科ではなくイタチ科に属している。タヌキもアナグマも、ずんぐりして一見よく似ているので、地方ではこの両方の動物をムジナと呼んでいる。

「戸をたたくタヌキと秋を惜しみけり」と蕪村が詠んでいるように、人里離れた山寺の戸などを夜中にタヌキが自分の尻尾でたたくことが知られているが、アナグマはこんな立派な尻尾は持っていない。

アナグマはタヌキに比べると、前足の爪が大きく、穴掘りの名人である。水はけの良い丘の斜面などにトンネルを掘り、必要以上にいく部屋もある「アパート」を造る。これを見つげると、タヌキは自分の家族を引き連れて引っ越してくる。

タヌキは巢穴のそばに共同便所を造る。これをタヌキの「ため糞ぐそ」という。これを見つけると猟師りょうしは穴の入口で火を焚たき、煙けむりでトンネルを燻いぶし、アパート②の住人を追い出しにかかる。これはかなわぬと、タヌキもアナグマも次から次へと穴から飛び出してくるが、こんなことから「ひとつ穴のムジナ」と呼ばれるようになった。

(林 壽郎じゅろうほか著「ツルはなぜ一本足で眠ねむるのか「適応の動物誌」による)

右の文章では、タヌキとアナグマの分類上の所属、尻尾や前足の爪などの形態、巢穴や共同便所の造り方などの習性について比較・対照し、両者の違いを明らかにしています。両者は、習性から同じ穴にすみ、その上、形態が一見よく似ているために、いっしょにされたというものです。これが「ひとつ穴のムジナ」のいわれです。

このように、比較・対照は、類似点や相違点を明らかにして物事の特徴をとらえるのに有効な方法です。

一 文章中に使われている「二見」<sup>①</sup>の意味を、次のアからエの中から一つ選んで、その記号を書きなさい。

- ア 一度あうこと
- イ 初めてあうこと
- ウ ひととおりに見ること
- エ ちらっと見ること

二 「アパートの住人」<sup>②</sup>とは、ここでは何を指すのかを考えて次のようにまとめました。空らんに入る適切な語句を、文章中の言葉を使って八文字で答えなさい。

アパートの住人 〓

--	--	--	--	--	--	--	--

〓

「ひとつ穴のムジナ」

三 この文章の要旨<sup>ようし</sup>として最も適当なものを、次のアからエの中から一つ選んで、その記号を書きなさい。

- ア いくつかのものを比べることによって類似点<sup>るいじ</sup>や相違点<sup>そうい</sup>を明らかにする方法を、比較・対照<sup>ひかく</sup>という。
- イ 比較・対照は、類似点や相違点を明らかにして物事の特徴<sup>とくちよう</sup>をとらえるのに有効な方法である。
- ウ 動物を比べるときには、形態や習性、生息場所などを比較・対照するとよい。
- エ 物事の特徴をとらえるときには、そのものをしっかり見つけることが大切だ。